

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135	15-114	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
The association of pre-pregnancy alcohol drinking with child neuropsychological functioning. 妊娠前の飲酒習慣と子供の神経心理学的機能の関連		
<b>執筆者</b>		
Kesmodel US, Kjaersgaard MI, Denny CH, Bertrand J, Skogerboe A, Eriksen HL, Bay B, Underbjerg M, Mortensen EL.		
<b>掲載誌</b>		
BJOG. 2015 Dec;122(13):1728-38. doi: 10.1111/1471-0528.13172.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、妊娠、神経発達、知能、注意力		25395365
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 妊娠前の飲酒が小児の神経心理学的機能に及ぼす影響を評価する。		
<b>方法：</b> デンマークにおいて、1997～2003 年に登録された妊婦による Danish National Birth Cohort から、154 組の母子を対象とした。母親の妊娠前の飲酒量によって、非飲酒、週あたりの平均 15～21 ドリンク、22 ドリンク以上の 3 群に分けた (1 ドリンク=エタノール 12g)。子供が 5 歳の時点で知能、注意力、実行機能、運動機能を各々 WPPSI-R、TEACH-5、BRIEF、MABC によって評価した。BRIEF の評価は母親および保育施設の職員が行った。交絡の可能性から、両親の学歴、母親の IQ、出生前の母親の喫煙、評価時の子供の年齢、子供の性別、妊娠中の母親の飲酒状況を共変量とした。母親の妊娠前の飲酒量と子供の知能、集中力、実行機能、運動機能との関連を多重線形回帰によって解析した。		
<b>結果：</b> 妊娠前の週平均 15～21 ドリンクの飲酒は、いずれのアストカムとも関連が認められなかった。週平均 22 ドリンク以上の群では、非飲酒群と比較して調整した全検査 IQ、総注意スコア、持続的注意スコアが有意に低かった (各々 P=0.02, 0.01, 0.01)。しかし、選択的注意スコア、BRIEF スコアおよび MABC スコアとの関連は認められなかった。		
<b>結論：</b> 妊娠前の週平均 22 ドリンク以上の飲酒は、子供の全検査 IQ、総注意力、持続的注意力の低下と関連していた。妊娠前の飲酒習慣の評価により、子供の神経発達への影響について新たな知見が得られた。		